

「月例経済報告」における<日本経済の基調判断>の推移 (内野光子作成)

年月・首相・年頭所感など	現状／総論	先行き／日銀の金融政策
1965/11~70/7 イザナギ景気 1973 第1次石油ショック 1979 第2次石油ショック	1954~1958/2 「月例経済情勢」 1958/3~ 「月例経済報告」となる	
1980/1 (大平) (経済企画庁) 1986/12~91/2 バブル景気 1989/12 株価最高値 38,957 円	(我が国経済をみると、これまでのところ国内民間需要を中心に総じて着実な拡大が続いており、生産出荷も堅調に増加している。こうしたなかで、雇用情勢は、なお厳しいものの緩やかな改善が続いている。国際収支面では、原油価格上昇の影響などから経常収支は引続き赤字となっている。卸売物価は、堅調な需給地合のなかで、海外原材料高の影響により、石油・同製品を中心に大幅に上昇している。一方、消費者物価はおおむね落ち着いた動きを続けている。)	
1990/1 (海部)	(わが国経済は、国内需要が堅調に推移し、企業収益は更に増加を続けており、雇用情勢も引き続き改善するなど、拡大局面にある。)	
2000/1 (森) (経済企画庁)	(総括判断) 景気は、民間需要の我が国経済は、全体として需要の回復が弱く、厳しい状況をなお脱していない。しかし、各種の政策効果やアジア経済の回復などの影響から、景気は、緩やかな改善が続いている。	
2001/1 (森) (省庁再編により内閣府)	(総括判断) 景気は、家計部門の改善が遅れるなど、厳しい状況をなお脱していないが、企業部門を中心に自律的回復に向けた動きが継続し、全体としては、緩やかな改善が続いている。	
2002/1 (小泉) 2002/2~2008/2 イザナミ景気	景気は、悪化を続けている。	先行きについては、世界経済が同時に減速するなど、懸念すべき点がみられるものの、アメリカを中心としてIT関連部門における在庫調整には進展がみられる。
2007/1 (安倍) 2007/3 サブプライム住宅ローン問題表面化	景気は、一部に弱さがみられるものの、回復している。	先行きについては、企業部門が底堅く推移し、景気回復が続くと期待される。一方、サブプライム住宅ローン問題を背景とするアメリカ経済の下振れリスクや金融資本市場の変動、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。
2008/1 (福田) 4月より発表形式変更 2008/9 リーマンショック	景気は、一部に弱さがみられるものの、回復している。	先行きについては、企業部門が底堅く推移し、景気回復が続くと期待される。一方、サブプライム住宅ローン問題を背景とするアメリカ経済の下振れリスクや金融資本市場の変動、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。

<p>2009/1 (麻生)</p>	<p>景気は急速に悪化している</p>	<p>当面、悪化が続くとみられ、急速な減産の動きなどが雇用の大幅な調整につながるものがねんされる。加えて、世界的な金融危機の深刻化や世界経済の一層の下振れ懸念、株式・為替市場の大幅な変動の影響など下押しするリスクが存在することなど留意する必要がある。</p>
<p>2010/1 (鳩山)</p>	<p>景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として、厳しい状況にある。</p>	<p>先行きについては、当面、厳しい雇用情勢が続くとみられるものの、海外経済の効果などを背景に景気を持ち直し傾向が続くことが期待される。一方、雇用情勢の一層の悪化が海外景気の下振れ懸念、デフレの影響など景気を下押しするリスクが存在する必要がある。</p>
<p>2011/1 (菅)</p>	<p>景気は、足踏み状態にあるが、一部に持ち直しに向けた動きがみられる。ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。</p>	<p>(先行きのプラス要因) ・海外経済の改善・各種の政策効果、等 (先行きのリスク要因) ・海外景気の下振れ懸念や為替レートの変動などによる景気のさらなる下押し・デフレの影響や雇用情勢の悪化懸念等</p>
<p>2012/1 (野田)</p>	<p>景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、緩やかに持ち直している。</p>	<p>(先行きのプラス要因)・各種の政策効果等 (先行きのリスク要因)・欧州の政府債務危機が、金融システムに対する懸念につながっていることや金融資本市場に影響を及ぼしていること等により、海外景気が下振れし、我が国の景気が下押しされる懸念・電力供給の制約や原子力災害の影響・デフレの影響、雇用情勢の悪化懸念、等。</p>
<p>2013/1 (安倍) デフレ・円高からの脱却⇒ 経済再生の三本の矢： 金融政策・財政改革・成長戦略</p>	<p>景気は、弱い動きとなっているが、一部に下げ止まりの兆しもみられる。</p>	<p>先行きについては、当面は弱さが残るものの、輸出環境の改善や経済対策の効果などを背景に、再び景気回復へ向かうことが期待される。(リスク要因) ・海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスク。 ・雇用・所得環境の先行き、デフレの影響にも注意が必要である。</p> <p style="text-align: right;">【2013/1 物価上昇2%を目標に。2013/4 質的量的金融緩和へ】</p>

<p>2014/1 (安倍) デフレ脱却は道半ば・強い日本を取り戻す⇒積極的平和主義・教育再生・改憲への議論</p>	<p>景気は、緩やかに回復している</p>	<p>先行きについては、輸出が持ち直しに向かい、各種政策の効果が下支えするなかで、家計所得や投資が増加し、景気の回復基調が続くことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、消費税率引上げに伴う駆け込み需要及びその反動が見込まれる。【2014/10 質的量的金融緩和拡大へ】</p>
<p>2015/1 (安倍) 戦後 70 年・なせば成る⇒経済再生・東日本大震災からの復興・教育再生・社会保障改革・改稿安保の建直し、地方再生・女性が輝く社会 <i>世界の中心に輝く国として</i></p>	<p>景気は、個人消費などに弱さがみられるが、緩やかな回復基調が続いている。</p>	<p>先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、原油価格下落の影響や各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、消費者マインドの弱さや海外景気の下振れなど、我が国の景気を下押しするリスクに留意する必要がある。</p>
<p>2016/1 (安倍) もはやデフレではない⇒新三本の矢：GDB600兆円・希望出生率 1.8 介護離職ゼロ <i>日本が世界の真ん中で輝く</i></p>	<p>景気は、このところ一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。</p>	<p>先行きについては、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復に向かうことが期待される。ただし、アメリカの金融政策の正常化が進むなか、中国を始めとするアジア新興国等の景気が下振れし、我が国の景気が下押しされるリスクがある。こうしたなかで、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。 【2016/1 マイナス金利付き質的量的金融緩和へ、7月さらに強化】</p>
<p>2017/1 (安倍) 憲法施行 70 年 一億総活躍・積極的平和主義・子供たち誰もが夢に向かって <i>世界の真ん中で輝く日本を</i></p>	<p>景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。</p>	<p>先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p>

<参考資料>

○首相官邸及び日本銀行ホームページ資料

○内閣府：月例経済報告（1998年～）<http://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/getsurei-index.html>

○内閣府経済社会総合研究所：月例経済報告（1980年～）

（政府の景気判断に関する公表資料）http://www.esri.go.jp/jp/prj/sbubble/data_history/data_history_list.html

